

## 天声人語

江戸情緒の残る参道を抜け、大鳥居をくぐると「立入禁止警視庁」という黄色の規制線が目を射る。東京都江東区の富岡八幡宮では周辺の辻々に警官が立ち、境内の「横綱力士碑」には近づけなかった▼「深川の八幡さま」と親しまれる神社で、女性宮司と実弟である元宮司、妻の3人が死亡する驚きの事件が起きた。弟が姉に切りつけたらしい。子細はわからないものの、日本刀を振りまわすとは尋常ではない▼惨劇の報に接して思い出すのは、大竹文雄・大阪大教授らが今年発表した研究成果だ。寺院や神社の近所で育った人は、そうでない人に比べて、人を信頼し、恩を返したいと考える傾向が強い。それが幸福感や健康にもよい影響を与えるという▼いわく、神社は地域社会の拠点で、子ども会行事や清掃、盆踊りなどが盛んだ。親切には親切で報い、労をいとわず人助けをしようという志向が住民に見られるという。なるほど江戸三大祭りで見られる富岡八幡宮のような神社では、いまも地域住民の結びつきは強い▼「江戸屈指の大神社で、祭礼のにぎやかさ、各氏子中が趣向をこらして練り出す山車や(略)大神楽の美々しさでも満都に鳴りひびいてる」。作家の故杉本苑子さんは小説『永代橋崩落』で200年前の活況を描写している。そのころから氏子たちの熱意は格別だったのだろう▼それにしても何が凶行に駆り立てたのか。400年近く信仰を寄せ、祭礼を支えてきた人々にすれば、これほどの落胆はあるまい。